

Ⅱ 地域毎の農業の特徴

【道央地域】

(空知・上川・留萌・石狩・胆振・日高)

稲作の中核地帯を形成しているほか、野菜、軽種馬、肉用牛など、地域の特色を生かした農業を展開している。

農業の特色により以下の3地域に細分。

- ①稲作地域(空知・上川・留萌)
- ②稲作及び野菜地域(石狩・胆振)
- ③軽種馬地域(日高)

【道南地域】

(渡島・檜山・後志)

水稻が各地で栽培されているほか、野菜作や果樹作、酪農などが盛ん。

道内では最も温暖な気候に恵まれ、集約的な農業が展開されている。

【道東(酪農)・道北地域】

(釧路・根室・宗谷)

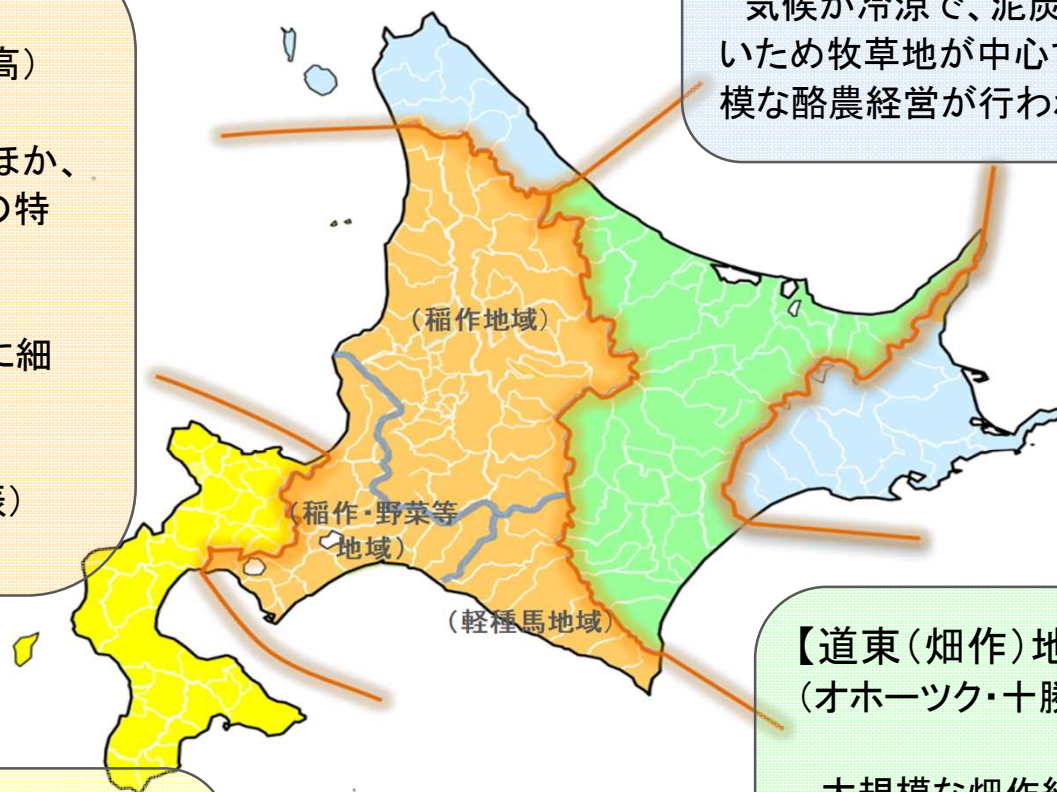
気候が冷涼で、泥炭地などの特殊土壌が多いため牧草地が中心で、これを活かした大規模な酪農経営が行われている。

【道東(畑作)地域】

(オホーツク・十勝)

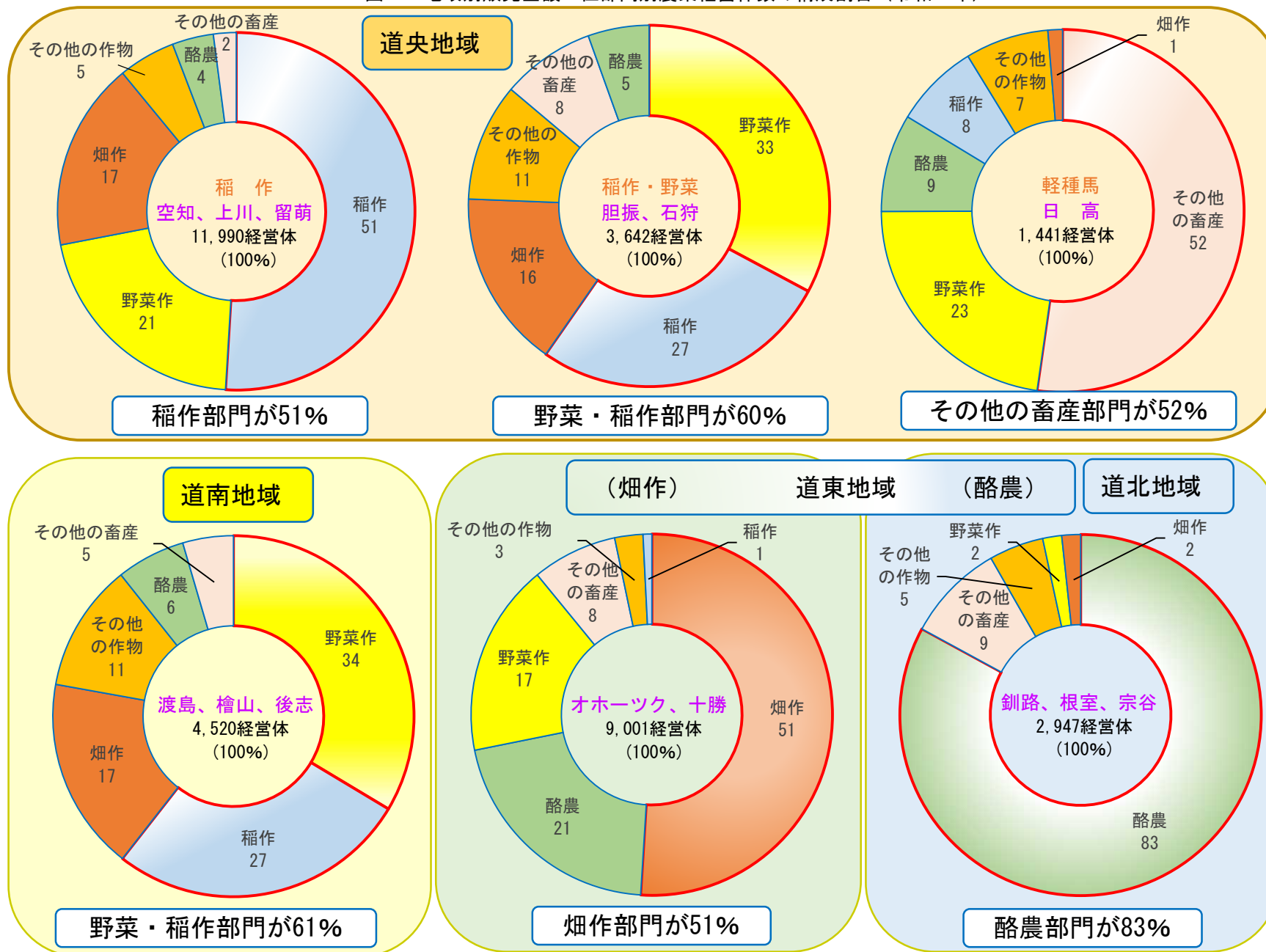
大規模な畑作経営により、麦類、豆類、てんさい、ばれいしょ、たまねぎなどの輪作による生産が盛ん。

また、大規模な酪農経営も行われている。



1 地域別にみた販売金額1位部門別農業経営体数の構成割合

図12 地域別販売金額1位部門別農業経営体数の構成割合（令和2年）



- 各部門の構成は以下のとおりです
- 畑作
 - 麦類作
 - 雑穀・いも類・豆類
 - 工芸作物
 - 野菜作
 - 露地野菜
 - 施設野菜
 - その他の作物
 - 果樹類
 - 花き・花木
 - その他の作物
 - その他の畜産
 - 肉用牛
 - 養豚
 - 養鶏
 - その他の畜産（軽種馬を含む）

販売金額1位部門別農業経営体数には、「販売なし」の経営体は含まれません

2 地域別農業経営体数の推移

- ・ 農業経営体数を地域別で見ると、道央（稲作）地域が12,471経営体で最も多く、次いで道東（畑作）地域（9,222経営体）、道南地域（4,726経営体）となりました。また、5年前からの減少率では、道央（軽種馬）地域が17.3%で最も大きく、次いで道央（稲作）地域（16.1%）、道南地域（15.2%）となりました。（図13）

図13 農業経営体数の地域別推移

